

「福祉用具専門相談員」 養成講習会のご案内



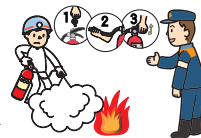
車いすや歩行器などの福祉用具を利用者に提供する際に選び方や使い方について適切なアドバイスを行う「福祉用具専門相談員」の養成講習会を開催いたします。ご興味をお持ちの方はご参加ください。

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 7月30日(火)～8月29日(木)の間 8日間(概ね9時～17時) |
| 内 容 | 50時間 ※1時間程度の修了試験があります |
| 受 講 料 | 30,000円(消費税込み・テキスト代金含む) |
| 定 員 | 30名 |
| 申込締切 | 7月20日(土)締切 |
| 申込方法 | <p>下記を郵送ください</p> <ol style="list-style-type: none"> 履歴書(市販のもの使用 A4サイズ [A3二つ折り、写真貼付]) 医療・福祉に関する資格があれば 保有資格の修了証明書等の写し 返信用封筒(長形3号の封筒に 94円切手貼付、宛先記入) <p>宛先 〒296-8602 鴨川市東町929 亀田総合病院 継続学習センター</p> |
| 選考方法 | 書類選考後に受講決定通知書を発送いたします |
| 問い合わせ | 月～金曜日 9:00～17:00 TEL: 04-7099-1165(直通) |

お知らせ 6月29日(土)春季防災訓練

火災を想定した春季防災訓練を6月29日(土)午後、実施いたします。

訓練中は非常放送設備を使用した放送訓練もあわせて行うため、何れも非常放送が流れます。入院患者さまをはじめ来院者の皆様には大変ご迷惑をおかけいたしますが、何卒ご理解くださいますようお願いいたします。





7月7日(日)、全国の医療従事者を対象としたサーフィン大会「Kameda Cup 2024 in Kamogawa」を東条海岸マルキポイントにて開催します。サーフィンをする方もしない方も楽しめるイベントです。詳しくはホームページをご確認ください。

- サーフィン大会 **7:00～17:00**
* 地元プロサーファーによるエキシビションは 14:30頃を予定
- ステージイベント **10:00～15:00**
* ダンスパフォーマンスやバンド演奏を予定
- 飲食ブース **10:00～17:00**

広島県から湯崎知事一行が視察



6月10日(月)、広島都市圏の病院の再編・統合を進める湯崎英彦広島県知事一行が当院を視察。少子高齢化が進むなかのように地域医療を維持していくのか、幅広くディスカッションを交わしました。

医師の不足や偏在、救急医療体制などの医療課題を抱える広島県では、医療資源の集約と症例の集積を目的に、県立広島病院、JR広島病院、中電病院、広島がん高精度放射線治療センターの4施設を統合し、2030年に1,000床規模の新しい拠点病院を整備する構想が

進められています。新病院では救急医療、がん医療、小児医療、災害医療といった高度医療の充実をめざすと共に総合診療専門医の育成にも注力する計画で、少子高齢化が進む千葉県南部で同規模の病院を運営する当院の取り組みを視察するため来訪されました。

施設見学では、高度急性期医療を支える上で欠かすことのできない手術室や集中治療室(ICU)などを見学。その後のディスカッションでは、地域の医療機関との役割分担や連携、医師等スタッフの確保・育成、総合診療医の育成など、限られた時間の中で意見交換が行われました。特に高齢化で併存疾患をもった患者が増えるなかで、専門医と伴走しながら、退院まで幅広い視野から患者さまに最適なケアを実践する「ホスピタリスト」の活動に高い関心が寄せられました。

湯崎知事は視察後、「目から鱗のお話がいろいろ伺えてよかった」と、当初の目的を果たし満足された様子で当院を後にしました。



第4話 糖尿病をお持ちの患者さんに、一番伝えたいこと。

皆さんはご存じでしょうか。医療者は皆、診察室を出られる患者さんを注意深く見えています。椅子から立つ時のふらつき、歩く速度、歩幅、足音は神経障害やフレイル、サルコペニア、その他の併存疾患を診断する契機になることがあります。服装やご家族との会話が参考になることもあります。そして患者さんの背中を見送りながら、考えています。

患者さんは今日、診察に来て良かったと思ってくださったでしょうか。

患者さんが本当にたずねたかったこと、お話ししたかったことは、診察室を出られる前、ドアノブに手をかけた時に教えてくださいと言います。ドアノブクエスチョンと呼ばれますが、多く経験することではありません。ただ、以前、ある患者さんがちょうどドアに手をかけたまま振り返り、おっしゃいました。

「ここまではいいんですよ。でもここから一步出るとね、『糖尿病患者』だという目で見られてしまう。それがとても、恥ずかしい」

糖尿病はいつから恥ずかしい病気になってしまったのでしょうか。ある日突然誰のせいでもなく発症する糖尿病が、なぜ偏見に繋がるのでしょうか。

糖尿病に関わるスティグマが問題になっています。スティグマとは負の烙印。誤った知識や情報により、対象者が精神的・物理的に困難な状況に陥ることを言います。糖尿病のない方と変わらない生活をし、同じように活躍されるはずの患者さんが、糖尿病を理由に就職や昇進に影響するなど不利益を被ると、糖尿病を周囲に隠します。すると適切な治療の機会を失い、重症化することがあります。積み重なると、健康寿命短縮、医療費増大など、社会全体に影響を来します。

現在、スティグマを取り除き、患者さんが糖尿病を持つことを隠さずにいられる社会を作るためのアドボカシー(支援)活動が活発に行われるようになっていきます。誤解や偏見を払拭するための第一歩として、糖尿病学会・協会は、糖尿病の名称を「ダイアベティス」とする案を提出しました。2023年9月のことです。社会はどんな風に変わっていくのでしょうか。まだわかりません。名称の変更には様々な意見もあるものと思います。ただ確かなのは、糖尿病を持つ患者さんを取り巻く環境は、変わろうとしていること。心理的・社会的問題への対処は診療の上でも非常に大切です。お困りの患者さんはぜひ教えてください。できることを一緒に、考えていきたいです。

ある患者さんがおっしゃいました。
「インスリンが必要になってすぐは、皆に糖尿病になったって言えなかった。隠れてインスリンを打ったりして切なかった。今は仲の良い友達に皆糖尿病のことをわかってくれている。ごほんに行くと、『お前のことなんて誰も気にしていないんだから、さっさとここでインスリン打っちゃいなよ!』なんてあっけらかんと言ってくれる。それが、ありがたい」

糖尿病をしっかりと受け止め、周囲を支え、支えられながら、糖尿病とともに前向きに生きる患者さんを、一体誰が恥ずかしいと言うのでしょうか。



患者さんはその後、診察室を出る前におっしゃいました。例のドアノブクエスチョンです。「今度友達と京都に行くんだ! 1回きりの人生、思い切り楽しまないと! **行く前に気を付けておいたほうが良いこと、ある?**」

診察室を出られる時、私がどんな気持ちで見送ったか一、皆さんのご想像の通りかと思えます。診察室を出られる皆さんが幸せでありますように。そんなお手伝いができるように。これが私の診療で一番大切にしていることです。

※本連載は、糖尿病をお持ちの患者さん向け冊子『おまめさんNo.102 2024-1-25』に掲載された原稿を転載しています。



医療エッセイのバックナンバーはこちらから→
ご覧いただけます。

<https://medical.kameda.com/general/about/magazine/index.html>

第3土曜日の店舗営業態勢

6月より亀田クリニックが第3土曜日休診となることを受け、クリニック内の全店舗が休業となるほか、右記の店舗の営業態勢が変わります。ご利用の際はご注意ください。

休業・時短営業店舗

| | |
|----------------------|------------|
| サテライトローソン (パーキング棟2階) | 休業 |
| ベーカリーミコモ (A棟1階) | 休業 |
| ル・パイザージュ (S棟1階) | 9:00~18:00 |
| タリーズコーヒー (Kタワー1階) | 9:00~16:00 |

【青山フラワーマーケット(クリニック1階)】6月より土曜日の営業時間を短縮します(9:00~**15:00**) ※第3は休業